

「家族留学」の意義から考える 大学生の現状と今後求められる取り組みについて

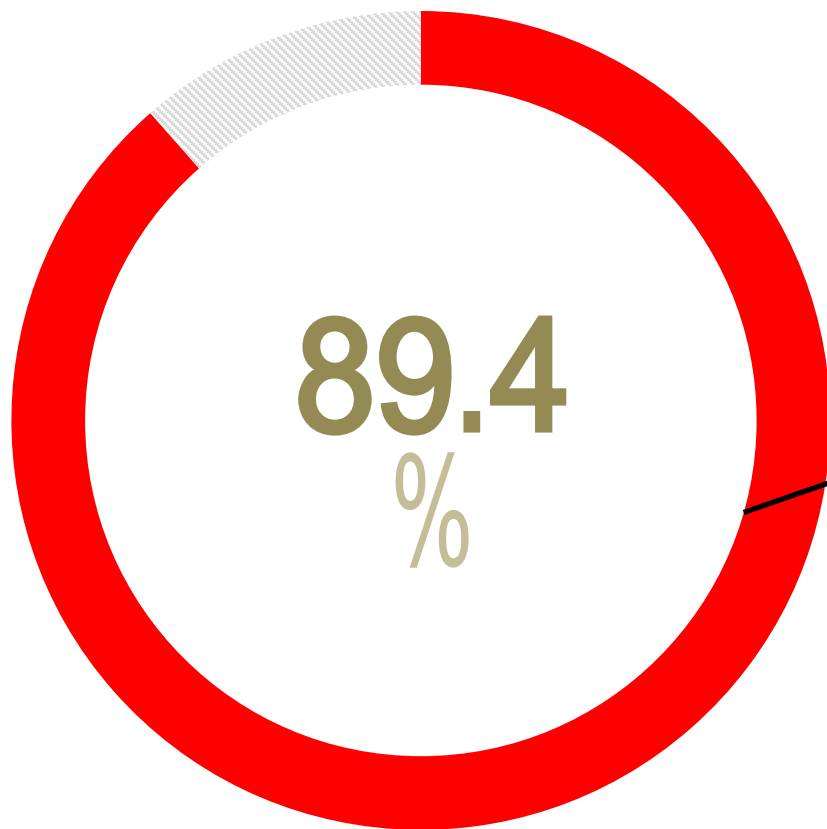
2016年11月7日(月)

第2回 結婚の希望を叶える環境整備に向けた
企業・団体等の取組に関する検討会資料

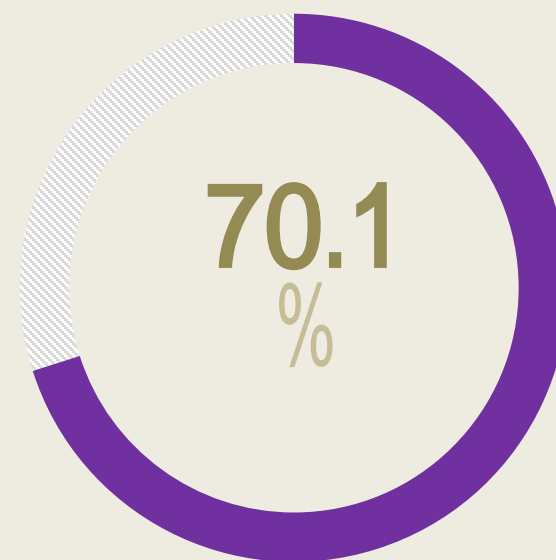
manma 新居 日南恵

未婚女性の意識

いずれ結婚するつもり



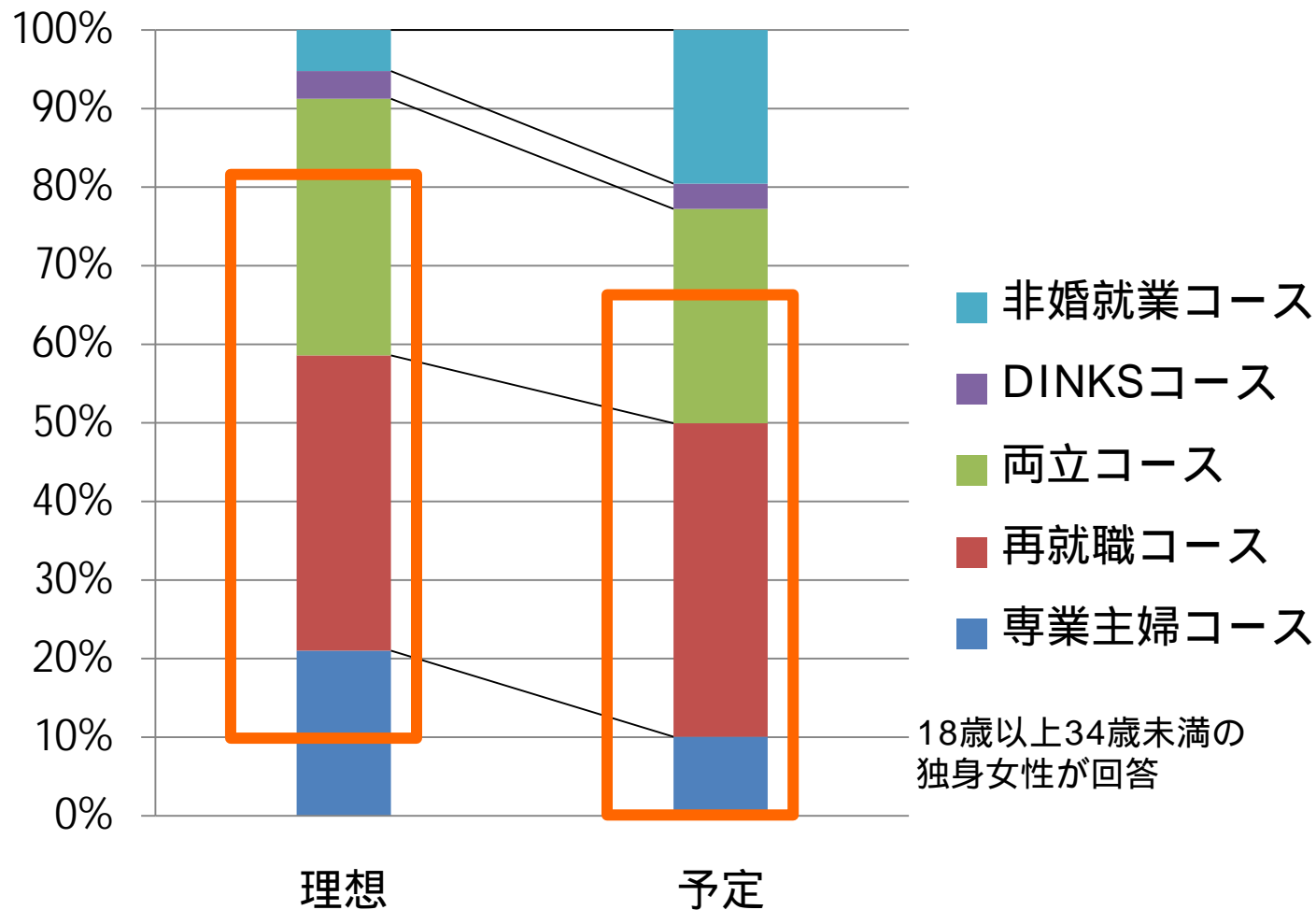
結婚したら 子どもをもつべき



(出所)国立社会保障・人口問題研究所
『第十四回出生動向基本調査』(2010)
18歳以上50歳未満の独身女性が回答

未婚女性の意識

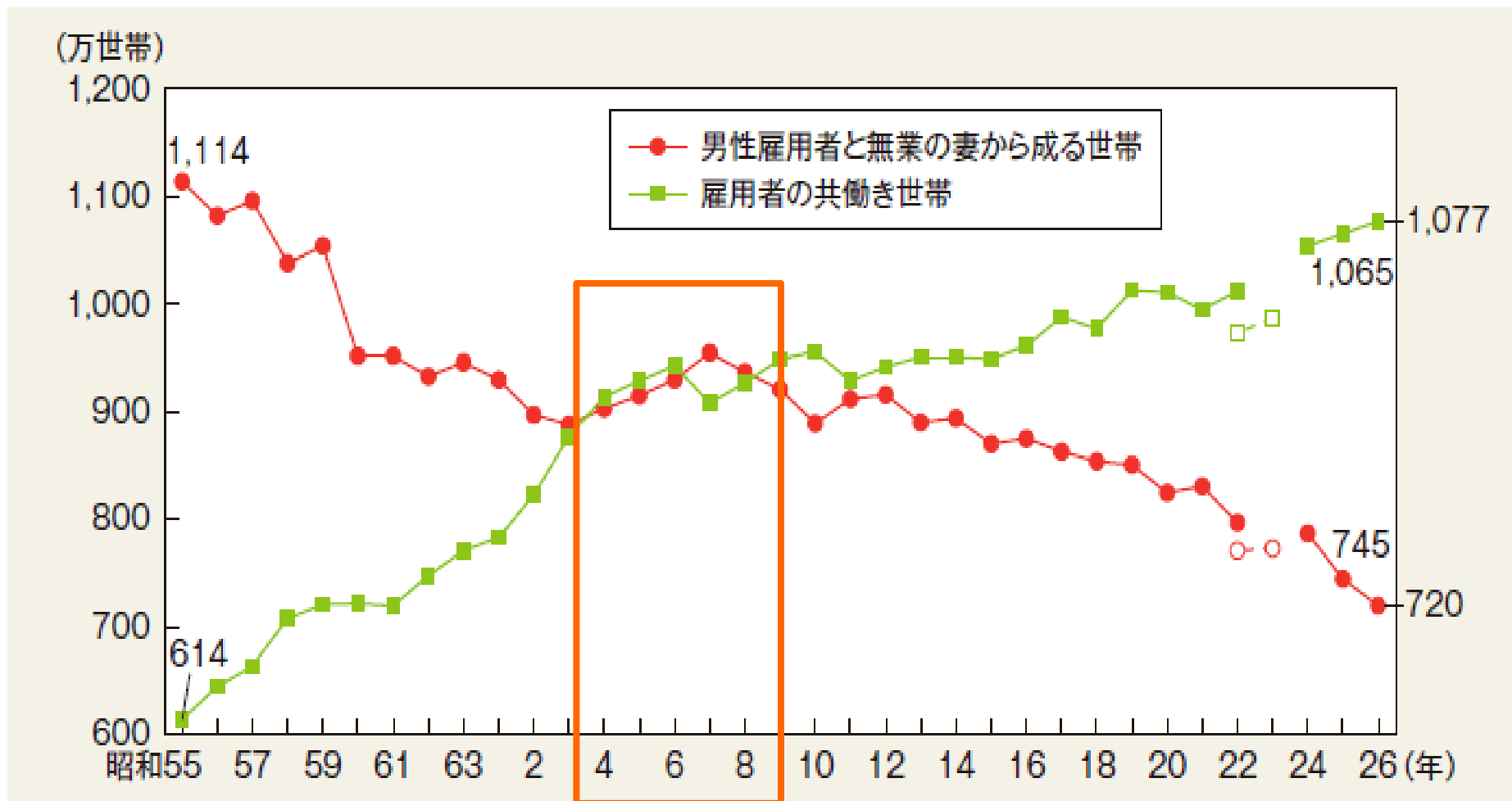
未婚女性の理想・予定のライフコース



(出所)国立社会保障・人口問題研究所
『第十四回出生動向基本調査』(2010)

女子大生世代の現状

共働き・専業主婦世帯数の推移



(出所)内閣府平成27年版 男女共同参画白書I-2-9図を引用

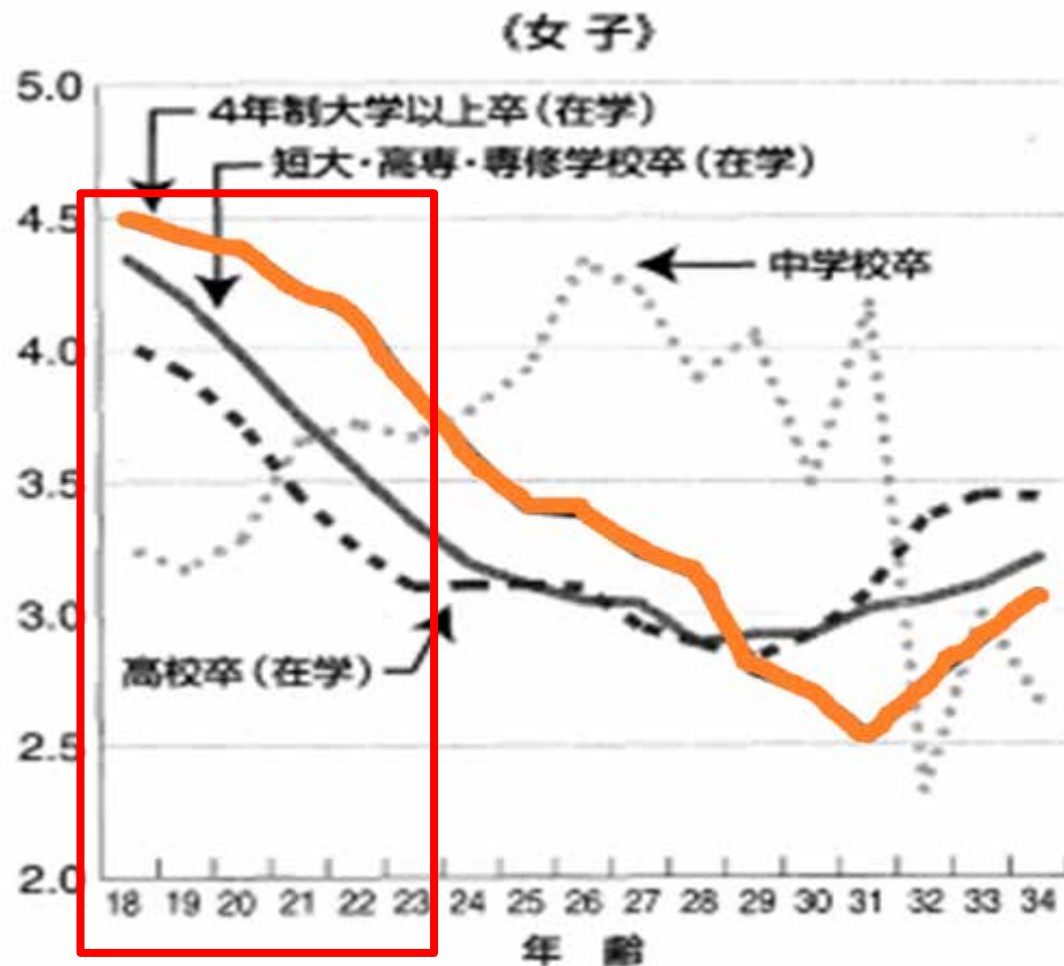
女子大生世代の現状

学歴による年齢別にみた未婚者の結婚からの意識距離

身近でない



身近である



女子大生世代の現状

1

将来は働きながら子育てをしたいと考えているが、親をモデルにすることができないことがある

2

18歳から23歳では、とくに女子大生が結婚を身近に感じていない

家族を取り巻く個人化・多様化

戦後の家族モデル



子どもと法律婚の夫婦



マイホーム

具体的・だれでも

現代の理想像

自分らしさの実現

抽象的・格差

女子大生の結婚の希望を叶えるために必要なもの

1

家族形成に当事者意識をもてる

2

多様な親のロールモデルと出会う

以上二つを満たす、現場体験の支援。



「家族留学」の必要性

家族留学とは

「学生のためのご家庭版OB・OG訪問」

女子大生を始めとするプレママ・プレパパ世代が、子育て中のご家庭の1日に同行。
子供とのふれあい体験 / 多様なロールモデルとの出会いを通して
「結婚・子育て」と「働く」の両面から自身のライフキャリアプランと向き合う。

11:30～13:30

ご家庭の方と待ち合わせ。一緒に
お昼ごはんを作って食べる。

子育て家庭にとっては当たり前の食事風景
も、大学生にとっては新鮮な光景に映ります。



14:00-16:00

近所の公園で子どもたちと遊ぶ。

子どもと遊ぶことも、大学生が将来を具体的に
想像し、家庭を持つことに対して関心を持つ
重要な要素です。



16:30-17:30

近所のスーパーで買い物。皆で夕
ごはんを作り、食べる。その後解散。

ご家庭との食事の時間をライフキャリアプラン
について率直に話を聞ける時間として大切に
しています。



子供とのふれあい体験

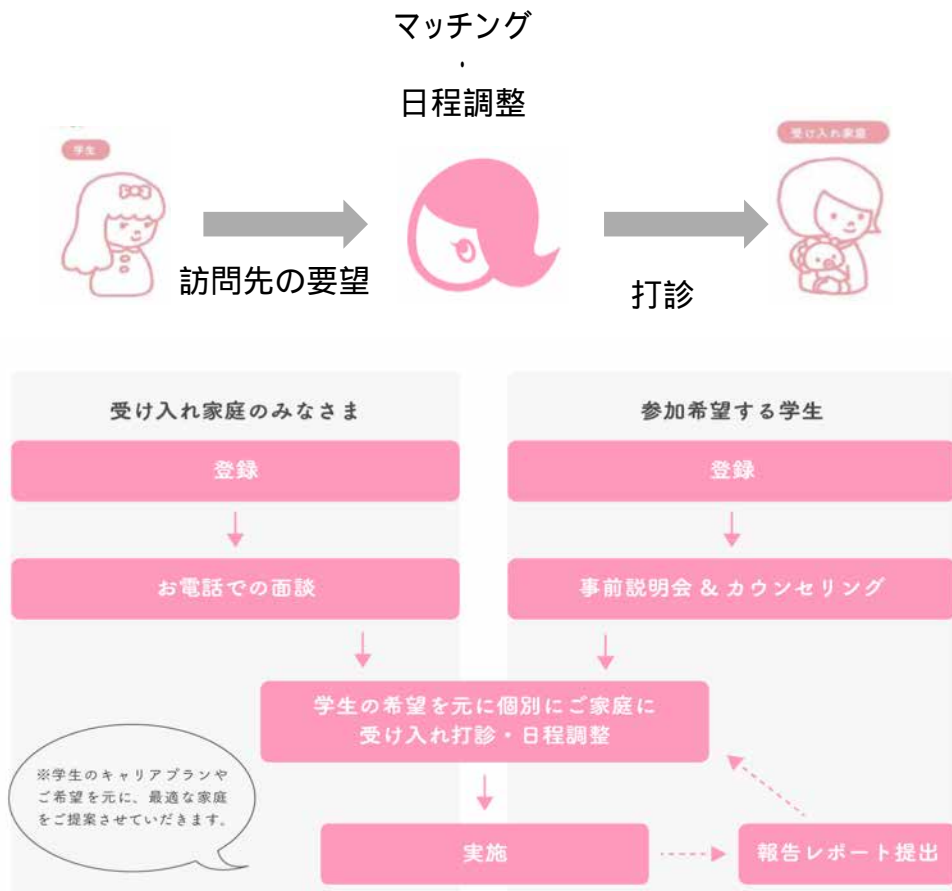


多様なキャリア人材との対話

1日体験・完結型プログラム
通常は、平日の夕方以降もしくは土日に実施
1家庭あたり1～3名参加

家族留学の仕組み

manmaが仲介役となり、参加を希望する学生の要望に合わせて
全国22都道府県にいる登録家庭に、受け入れを打診しマッチングを行う。



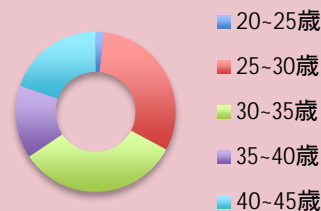
1回参加ごとに事後研修を実施
振り返り会を2ヶ月に1回開催

受け入れ家庭の属性

地域分布

北海道、福島、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川
福井、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫
鳥取、岡山、香川、高知、福岡、宮崎、鹿児島

年齢



お子さんの人数



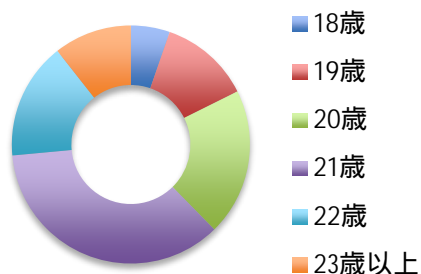
職業(勤務先)

大手企業勤務(株式会社NTTデータ、株式会社博報堂、朝日新聞等)
厚生労働省、弁護士、保育士、医療従事者(医師、助産師)など

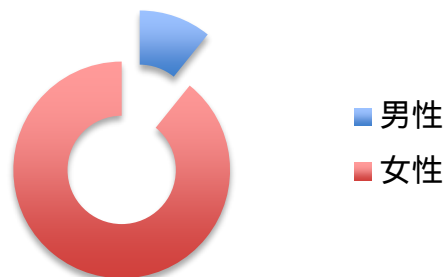
家族留学参加大学生の属性

就職活動が目前に迫った、21歳(大学3.4年生)の女性が最も多い
東京、京都を中心とした都市部の高学歴層が積極的に参加

年代



男女比



居住地域

16都道府県

東京、神奈川、千葉、高知、京都、大阪
兵庫、埼玉、静岡、北海道、茨城、宮城
栃木、熊本、大分、香川、長野

所属大学

東京大学、京都大学、北海道大学、筑波大学、一橋大学、お茶ノ水女子大学、千葉大学
東北大学、東京学芸大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、国際基督教大学
大阪大学、関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学、神戸大学、青山学院大学
立教大学法政大学、中央大学、学習院大学、明治大学、横浜国立大学、創価大学、東京外語大
学、東京女子大学、昭和女子大学、津田塾大学、武蔵野美術大学など

家族留学への参加動機

家庭と仕事の両立をしたいが、親世代は専業主婦が多くロールモデルがない。
その為、イメージが湧かない漠然とした不安感を抱えている。

女性の仕事と家庭の両立に強い関心があった。また、私も含め現在の大学生の母親世代は専業主婦で子供の小さい頃育児をしていた方がほとんどのため、身近なロールモデルを探してみたいと考えた。

結婚した後も両立しながら働いていきたいと考えておりますが、先輩や企業の方から仕事についてはお話を聞く機会があっても子育てについては誰も教えてくれず、漠然とした不安がありました。

子供を産んだ後も、家庭と仕事の両立をしたいと考えているので、家族留学を体験させて頂くことで、実際のイメージを得たいと思ったからです。

大学3年生になり、就職活動を前にも増して意識するようになりました。仕事を選ぶ際に、私は将来築くであろう家族が外せない軸になるな、仕事と家庭を両立できるような自分の納得できる仕事と就職先を見つけたいと思うようになりました。

女子大生世代の現状

1

将来は働きながら子育てをしたいと考えているが、親をモデルにすることができないことがある

2

18歳から23歳では、とくに女子大生が結婚を身近に感じていない

家族留学後の感想

- ・子供と触れ合ったことやママ友のネットワークに参加したことで、より子育てへのイメージが具体化した。
- ・共働きをしながら子育てをすることに対して前向きな気持ちになれた。
- ・私もこんな家庭を実現したい！と具体的にイメージできるようになりワクワクしています。
- ・凄くご両親の考えがしっかりとされていて素敵なお家庭で、とても良いロールモデルに巡り会えたと実感しました。
- ・子供と接することへのエネルギーが大変。でも、すごく愛情をそそいでるお母さんを見て素直に家庭っていいなと思った。
- ・子供が欲しいなという思いが、より強くなった。

家族留学の感想は
大きく右記5つに
分類される。

1

さまざまなライフスタイルを知ることができる！

仕事を中心に将来を考えることによって子育てとの両立の不安を抱く学生が、家族留学にて自分が希望するライフコースを実現している夫婦に話を聞くことで憧れと安心感を抱く。

2

夫婦のあり方、働き方って、もっといろいろあるんだ！

夫婦関係や働き方に対して、親の影響などで先入観を抱いていたことに気づき、新たな家族関係をみて、その生き方を選択肢の一つとしてまねしたいという思いを抱く。

3

子どもってかわいい！

子どもに受け入れられる体験をすることによって、自身の子どもを持ちたいという思いを持つ。

4

現代社会の子育てや家族にまつわる課題を知る。

現代の子育てや家族にまつわる社会の課題に対して、当事者と知り合ったことで関心を持ち、解決に対して使命感を抱く。

5

改めて自身の家族について考える。

子育ての苦労を体験し、自身の家族関係を見直したり、親に尊敬の念を抱いたりする。

家族留学参加者の例

仕事に集中したかったが、両立のメリットと子どもの可愛さを知って、結婚や子育てに前向きになった



青木 優さん
(お茶の水女子大学4年)

参加前

家は共働きで、母な仕事も家事も子育ても全部一人でやっていた。一人っ子で、子供には慣れておらず仕事で成果を出したいので、子育ては足かせになると思い、あまり望んでいない。しかし、本当にこの年齢で、すでに子供を諦めていいのか迷いがあり、参加した。

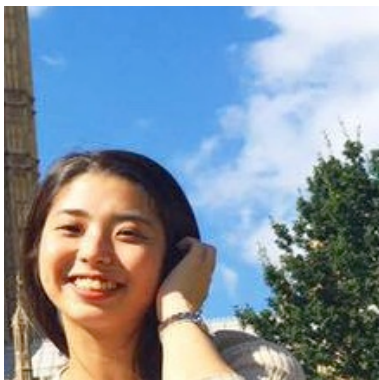
参加中

受け入れ家庭の方に、仕事と子育てが相乗効果をもつという話を聞いて、新たな視点に衝撃を受ける。一人で全部やろうとせず、旦那や周囲の人の力をかりればいいと知る。初めて子供と遊んでみて、意外とかわいいことに気がつく。

参加後

母みたいに一人で頑張らない形で出来るなら、仕事も子育ても諦めずに両方にチャレンジしてみたい。子育ては仕事の足かせどころから、仕事にも前向きな影響を与えることを知り。これまで諦めていた結婚や子育てに対しても前向きな気持ちになった。

母のような専業主婦ではなく共働きでも、素敵な家庭を築けると知って、将来家庭をもつことへの不安がなくなった



本田 唯さん
(慶應義塾大学3年)

参加前

母は専業主婦で、学校から帰ったら温かく迎えてくれる幸せな生活だった。しかし、自分は働くことの魅力も知り、共働きで子育てをしたいと思っている。そんなことをしたら、自分が育ってきたような、幸せな家庭は築けないように思って不安である。

参加中

ひとえに働くといっても、フルタイムから週3まで、多様な働き方があると知る。とても幸せそうで憧れの共働き家庭を見つける。

参加後

これまでは、自分の家庭しか見たことがなかったので専業主婦になることが子供のためだと思っていたが、働きながらも素敵な家庭を築けることを知り希望を持った。働き続けたい意思は変わらないが、子育て中は「細く」働くのもありだと思うようになった。

家族留学の効果

現状
課題

将来は働きながら子育てをしたいと考えているが親をモデルにすることができないことがある
18歳から23歳では、とくに女子大生が結婚を身近に感じていない

対策

多様な親のロールモデルと出会う
家族形成に当事者意識をもてる 以上を満たす、現場体験の支援が必要
➡ ライフデザイン構築のための「家族留学」

『少子化対策対網』 Vきめ細やかな少子化対策の推進
1.各段階に応じた支援 結婚
・ライフデザインを構築するための情報提供

効果

- ・ロールモデルの話しを肯定的に受け止め、両立や子育てのイメージが具体化する
- ・ロールモデルの話しに共感し、家族形成に前向きになる
- ・子供と触れ合い愛着がわき、家族形成に積極的になる

影響
(予測)

- ・結婚の希望をもつ人の増加
- ・若い年齢での結婚を検討する人の増加
- ・結婚や子育てを踏まえたライフデザイン構築をする人の増加

『少子化対策対網』 重点課題
2.若い年齢での結婚・出産の希望の実現